基礎ゼミコーナーの「指定図書」について

21 世紀教育センター 高等教育研究開発室
土持 法一

平成１７年度弘前大学ＦＤ講演会・シンポジウム（平成１７年１２月）は，「弘前大学の授業開発と実践」と題し，とくに，平成１８年度，新しい学習指導要領で学んだ生徒が入学してくることから，「授業内容の高大接続―各教科作業部会報告―」と題してシンポジウムを行いました。高大接続の重要性が指摘されて久しいが，学習指導要領の改正にともなって，再び，クローズアップされるようになりました。しかし，授業内容だけではありません。演習のような大学独自の授業形態も新入生の戸惑いの要因となっています。たとえば，「（東京大学の女子学生が）大学に入ってから，自分の頭で考えなさいとか，自分の意見を述べなさいといわれる。だけど，どうすれば自分で考えることができるのか，どうすれば自分の意見を持てるのか。その方法は，高校でも学ばなかったし，今大学でも教えてくれない・・・」（苅谷剛彦『変わるニッポンの大学―改革か迷走か』（玉川大学出版部，１９９８年，１７３頁）との声に凝縮されています。その東京大学の元総長で文部大臣もされた有馬朗人氏は，演習が大学教育の「要」であると指摘しています。

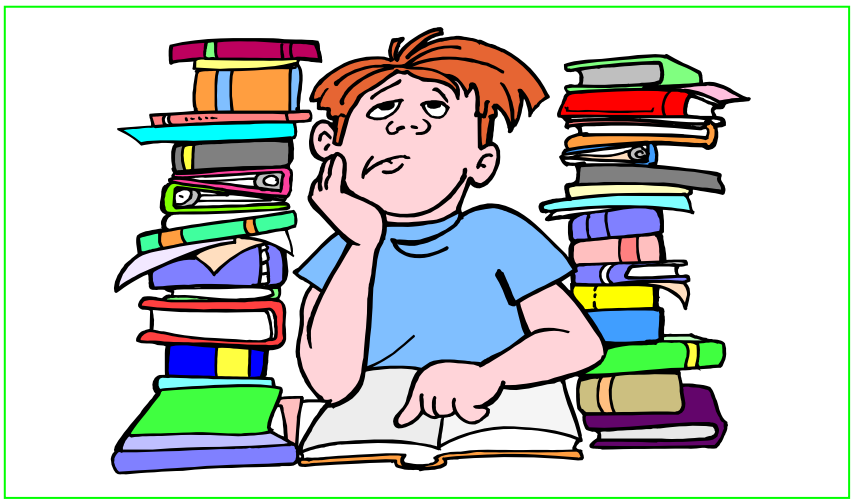
大学審議会の答申『２１世紀の大学像と今後の改革方策について』（平成１０年１０月）では「課題探求能力の育成」，そして中央教育審議会の答申『我が国の高等教育の将来』（平成１７年１月）でも，「単位制度の実質化」を取り上げ，学生に知的な刺激を与え，自主性を引き出し，自学自習の態度を身につけさせる能動的学習を促しています。このような自主的な活動を培うには，演習が重要であって，とくに，初年次の「基礎ゼミナール」は４年間の学士課程教育の成否を決定づけると言っても過言ではありません。

本学の「基礎ゼミナール」の達成目標（５項目）のなかには，１）自主的な学習態度を獲得すること，２）課題発見能力を高めること，３）資料（情報）の検索・収集・整理に関する基本的な技能を習得することなど，図書館を利用することなしに達成できないものばかりです。そのような理由から，本学の附属図書館では「教育・学習支援図書」の一環として，「基礎ゼミナール」の関連図書を重点的に購入し，「基礎ゼミコーナー」を新たに開設しました（**写真参照**）。これは学生に自学自修のための課題を与え，自主的な学習態度を促すことを目的としたもので，本学では「指定図書（Reading Assignment）」

と名づけています。また，学生がいつでも利用できるように，図書館のみでの閲覧を許可し，他の学生の利用の便を考えて貸し出しを禁止しています。この「基礎ゼミコーナー」に「指定図書」を開設したことで，より多くの学生が附属図書館に足を運ぶようになりました。平成１８年度も，引き続き，「基礎ゼミコーナー」の拡充を目指します。

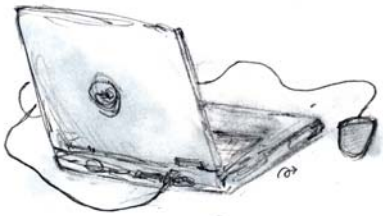
「基礎ゼミコーナー」に「指定図書」を開設した理由は他にもあります。教員にも「指定図書」を通して，学生に授業のための課題を与え，「自学自修」を徹底させ，単位の実質化を促してもらいたいとの思いがあります。承知のように，大学における単位制は高校とは違って，１時間の講義に対して，２時間の予習・復習の「自学自修」が課せられています。しかし，多くの教員は講義には熱心であるが，教室外の学生の「自学自修」の課題にまで手が回らないというのが実情です。大学教育学会の２００５年度研究集会「学士課程教育と教養教育」（２００５年１１月，新潟大学）において，角方正幸氏（リクルートワークス研究所）は，課題発見力のような「対課題基礎力」は，教員の授業スタイルによって培われると報告しています。すなわち，「課題探求能力の育成」は教員の授業方法にかかっていることがわかります。附属図書館の「指定図書」システムが，２１世紀教育の「基礎ゼミナール」のみならず，専門課程も含めたすべての学士課程教育において共通に実施されることを望んでいます。

（つちもち　ほういち）



図書館のちから

教育学部生涯教育課程 1年 野崎 美緒

弘前大学に入学する前までの私は，近所にあった図書館はもちろん，高校の図書室でさえ全く寄り付こうとしない子供でした。私のイメージの中での図書館は，静かで息苦しく，むしろ勉強しづらい環境。実際に行って確かめたわけでもないのに，勝手に，まるで食わず嫌いのような感じでした。ところが，大学入学と同時に，そんなことも言っていられない状況になってしまいました。そう，大学の講義の課題は，決まってレポート提出，という方式だったからです。友人たちが頻繁に図書館を利用して課題に取り組んでいたので，私も何となく行ってみたのです。入った瞬間驚きました。学生証のバーコードを読み取って入室できるシステム，すぐ横にはたくさん並んだ誰でも使用できるパソコン，さまざまな学生，先生方のために用意された膨大な数の本。そして何よりも驚いたのは，自分が想像していたのとは全く違った独特の空気。外とは違い，この中だけゆっくりとした時間が流れ，私を優しく向かい入れてくれているような気がして，とても居心地がよく，あまりの違いに困惑してしまいました。それからの私は，暇を見つけては図書館に足が向かうようになっていました。図書館にいると，時間が経つのを忘れてしまいます。それぐらい，自分でもびっくりするぐらい集中できてしまうのです。後期に入ってからは，テーマ科目の講義でも予習として，図書館に置いてある先生の指定した本を利用するようになりました。先生方の指定図書は館外に持ち出し禁止になっているので，予習したいのに借りられてしまって見られない，といった状況になることも少なく，とてもありがたいです。それでも冊数が少なくて，読みたくても本がない，ということもあるので，もう少し多めに置いてくれると嬉しいです。また，自分の専門分野の本は，難しい言葉で書かれてあるものが多く，苦労したりしますが，レポートを作成する際，とても役に立っています。これからも私は，図書館を自分らしく，この独特の空気を楽しみながら活用していきたいと思っています。

（のざき みお）